

# 東日本ユニオン営業協議会

平成29年1月  
発行責任者  
竹田 浩幸

## 本部第1回常任委員会開催 業務委託、効率化施策等諸問題の共有を図る

本部第1回常任委員会

1月26日、本部営業協議会は第1回常任委員会を開催し、駅業務委託、エルダー、駅遠隔操作システム問題点について議論を行った。

本部竹田議長は、前段、降雪による新幹線の遅れ対応に敬意と感謝を述べ、今後1年間の協議会活動協力要請を行った。

現在、東北、上信越エリアでは冬期体制が採られ、特に安全の確保に向け取り組んでいる。また、2017ダイヤ改正提案もありこれからの業務についての課題もあると思う。継続した課題として、駅業務委託、遠隔操作システム、エルダー問題についても問題の共有を図りたいと挨拶した。



本部 渡辺委員長は、今年JR発足30周年を迎え、労組して「安全安定輸送」に於けるチェック機能強化、労働に相応しい賃上げの成果を出すことが課題とした。

営業職場問題では、機械化、水平分業による業務執行体制の変化となる中、Gスタッフの採用停止の要因の一つとして人材の確保が困難になっていること、加えて、業務委託が進まず委託箇所が閉鎖される状況となってきている。「声かけサービス」と言われる中人がいない。サービスの在り方の議論、そして、ホームドア設置には多額の負担が必要。「公共性を持った民間企業」としてその費用の在り方を考える新しいビジネスモデルについて提言する時代になってきた。信頼される労組となるために会社の顔である営業が引っ張って欲しいと挨拶した。

### 「各地本報告」

- ・4/1駅業務3駅委託拡大。花巻、ほっとゆだ、盛駅 (盛岡)
- ・VP大館、横手の廃止。秋田支社3店のみ。浪岡駅(奥羽線)業務委託 (秋田)
- ・仙台駅改札口3か所で遠隔化工事。無人化か?説明なし。現箇所社員の今後の希望を早めに採ることが必要。
- ・2/5常磐線相馬駅業務委託。遠隔システム工事終了駅では今だ説明なし。(水戸)
- ・蕨駅での盲導犬利用者のホーム転落死亡事故。普段利用している方であり普段どおりの対応。事故を踏まえ、「見守り」の指示。私鉄では必ずついていくことに。(大宮)
- ・産業医に1人になる箇所への異動ができないとされ、高崎駅へ異動。しかし、夜間1時間一人のときがある。高崎支社には個人用の携帯用異常呼び出し装置がない。
- ・新人教育が上手くいかない。その場限りの対応。人出不足が要因か。分業による業務知識の方よりが見られる。
- ・盲人のお客さま対応に神経を使っている。他のお客さまの目がある。(高崎)
- ・VPの業務委託、廃止、駅は縮小され窓口の減、駅助役の減へ (東京)
- ・長野駅慢性的に要因不足。窓口の混雑。若手の育成もできず、中堅もいないためミスが多い。年休も入らず、冬期要員の派遣もできない。地区としての育成策が検討中。
- ・運輸区から駅への異動。モチベーションが低く、出札ができない。(長野)
- ・VP藤沢、武蔵小杉が廃止され、横浜支社では6店のみへ
- ・7月1日実施で、本郷台、中山駅業務委託提案 (横浜)
- ・新浦安、新検見川、千葉みなと、稲毛海岸駅遠隔システム導入計画
- ・空港第2ビル駅 2窓口増へ
- ・「サービス声かけ運動」放送案内強化、警備員配置。現状で支社の調査あり(千葉)

次回 第2回常任委員会 5月9日(火)13時30分 本部にて開催